

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	17-010	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
The burden of alcohol-related morbidity and mortality in Ottawa, Canada. カナダ、オタワにおけるアルコール関連疾患の罹患率と死亡率		
<b>執筆者</b>		
Willmore J, Marko TL, Taing D, Sampasa-Kanyinga H.		
<b>掲載誌</b>		
PLoS One. 2017 Sep 28;12(9):e0185457. doi: 10.1371/journal.pone.0185457.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール関連死亡、経時的変化、カナダ		28957368
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> アルコールに関連した疾患の罹患率および死亡率は公衆衛生上、非常に重要な情報である。本研究は、アルコール摂取量およびアルコール関連疾患の罹患率・死亡率を経時的に記述することを目的とした。さらに、社会における飲酒の一般的な認識も調査した。		
<b>方法：</b> アルコール消費の頻度 (2013-2014年)および経時的変化 (2000-2001年から2013-2014年)は Canadian Community Health Survey のデータを用い検討した。オタワにおける救急救命士の応答 (2015年)、救急受診 (2013-2015年)、入院 (2013-2015年)、死亡 (2007-2011年)の情報を用い、アルコールの急性および慢性的な健康への影響を評価した。また、2016年にオンラインで行ったアルコールに関する調査にて、アルコールの一般的な認識について調査を行った (16歳以上, n=1,832)。		
<b>結果：</b> 2013-2014年、19歳以上の推定 595,300名 (83%)が飲酒しており、うち42%が過去1年に過飲 (≥5 drink/回)があった。過度の飲酒 (月1回以上の過飲)者は、2000-2001年は15%であったが、2013-2014年には20%に増加した。2015年のオタワにおける救急活動のうちアルコールに直接関連した案件は2,060件であった。2013-2015年、アルコールが原因の救急受診および入院の1年平均件数はそれぞれ6,100件、1,270件であった。また、アルコールによる死亡は年間140件以上にのぼった。男性は、アルコールに関連した救急応対、救急受診、入院および死亡が多く、若者はアルコールに関連した救急応対件数が多かった。質的な調査の結果、アルコールの乱用は飲酒者だけでなくその家族および社会へ波及することを示した。		
<b>結論：</b> 健康的で適度な飲酒を推奨することが必要であるとともに、特に男性や若者に対する適切かつ危険性の低い飲酒行動を促す必要があると考えられる。		